

○中川 左理¹, 白川 晶一¹, 赤穂 榮一¹, 川崎 紘一¹

¹神戸学院大薬

【目的】神戸学院大学薬学部では、3年毎(現在は、2年毎)に、アメリカ薬学研修プログラムを実施している。薬学生の国際的視野を拡大し、将来の薬剤師活動に活かされることを目的としている。本研修は、6年制カリキュラムにおいて、選択科目「海外の薬剤師に学ぶⅠ」で開講しており、年2回(春・秋)、協定校の臨床教員を客員教授として招聘し、本学で行う集中講義「海外の薬剤師に学ぶⅡ・Ⅲ」と連動して実施している。今回、その内容について報告する。【方法】「海外の薬剤師に学ぶⅠ」では、研修参加学生約20名、引率教員2名で、西海岸(University of the Pacific、The University of Arizona、University of California San Francisco、UC Davis Medical Center等)と東海岸(Duquesne University、Giant Eagle Central Fill、National Institute of Health等)を訪問するプログラムであり、交互に実施している。「海外の薬剤師に学ぶⅡ・Ⅲ」では、海外客員教授による講義を行っており、学生が最新の薬物治療を学ぶ機会となっている。

【結果・考察】本研修の歴史は、約40年に遡る。時間の経過と共に、より充実した内容に進化し続けている。これまでは、本学から訪問する一方向的な研修であったが、一昨年度より、研修先の大学から本学への学生研修を受け入れ、相互の交流を深めている。また、研修前の事前研修の充実化に伴い、学生が各自の研修テーマについて、調査研究を行い、その成果を学会等で報告する機会も増えている。本研修を通して、学生の自主性や協調性の育成に繋がっており、さらに、学んだ成果を新たな情報として医療・教育現場に発信していくことが、今後ますます重要である。